

川田甕江

（おとけ）

漢學者、文學博士。文政十二年六月十二日備中國生

れ、明治二十九年二月一日歿（六三―共）。諱剛、字毅卿、幼名竹次

（二郎、通稱城之介・剛介、資兼・資廉。別號執齋、瓮江、瓮江客漁、

瓮江漁史、甕江居士、甕江客漁、甕江漁父、甕江老漁、甕江逸史等。

山田方谷と初め、藤森弘菴、大橋訥菴、安井息軒等、公師等。備中松山

藩の重職。維新後大學少博士、修史局一等修撰、東京御用掛、貴族院

議員、宮中顧問官等歴任。歌人川田順の父。龜山松濤著『川田甕江先

生小傳』（大正十五年四月）二百箇山（尋常高等小學校内）及申會）刊。

著書『蓋簪社古文偶評』全二冊（川田剛名、評點、明治八年一月山城

屋政吉刊）、『文海指針』（川田瓮江名、評點、小藥言冠造白下、寛編次、明治

九年十月（小藥言冠造）寛出版）、『皆夢文詩』（同、二爲中洲合著・高木弘

平輯、明治十二年八月十日、再刊、十二年一月有鄰堂）、『明治八大

家文』全二冊（合著・松村操纂評批點、明治十四年五月十日思誠堂）、

末松謙澄著『日本文章論』（川田剛名、評、明治十九年十一月東京又

學社、再版、二十年一月十九日溜・文學社）、『雄辯大家實地演說筆記

上卷』（同、合著、明治二十年六月一日内山龜太郎編輯、京改進堂・

鶴聲社發兌）、『千歳の菊』（同、高崎正風共編、明治二十二年十一

月、二百東京藏藏版、立太子禮記念詠進）、『日本史學新説』（同、合

著・廣池千九郎監輯、明治二十五年十一月十一日史學普及雜誌社）、

『訓蒙終語』（編、明治二十八年九月十九日華族女學校）等。